

スーパーマーケット販売統計調査資料

2021年1月実績 速報版(パネル270)

12月実績 確報版(パネル270)

2020年 年間集計 確報版

(2021年2月24日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアペーカリー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
		一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類	
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2021年2月24日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2021年1月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	93,038,429	100.0%	106.9%	106.0%
食品合計	84,540,760	90.9%	107.8%	106.8%
生鮮3部門合計	33,653,652	36.2%	109.2%	108.2%
青果	13,238,627	14.2%	109.7%	108.7%
水産	8,609,378	9.3%	106.3%	105.4%
畜産	11,805,648	12.7%	110.8%	109.8%
惣菜	9,270,072	10.0%	100.9%	99.8%
日配	18,052,174	19.4%	107.8%	106.9%
一般食品	23,564,862	25.3%	108.8%	107.8%
非食品	6,294,922	6.8%	100.3%	100.4%
その他	2,202,796	2.4%	96.9%	97.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,641,458	43	107.6%	107.2%
関東地方	34,454,889	73	107.8%	107.2%
中部地方	11,570,461	53	108.5%	106.4%
近畿地方	20,251,942	44	104.3%	103.7%
中国・四国地方	9,265,428	34	108.3%	106.5%
九州・沖縄地方	4,854,251	23	102.3%	101.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	607,993	46	101.5%	102.1%
4~10店舗	4,379,451	81	104.0%	104.3%
11~25店舗	9,393,350	54	107.4%	107.0%
26~50店舗	15,897,845	44	107.0%	106.7%
51店舗以上	62,759,791	45	107.0%	105.9%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	91,303,613
総店舗数 (店舗)	8,029	店舗平均月商 (万円)	11,588
総売場面積 (㎡)	13,407,727	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.9

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2021年2月24日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2020年12月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	109,845,000	100.0%	104.6%	103.6%
食品合計	99,606,644	90.7%	105.0%	103.8%
生鮮3部門合計	39,109,461	35.6%	105.5%	104.4%
青果	14,327,730	13.0%	102.6%	101.7%
水産	11,192,541	10.2%	105.7%	104.5%
畜産	13,589,191	12.4%	108.6%	107.3%
惣菜	11,009,344	10.0%	102.0%	100.8%
日配	20,791,651	18.9%	105.3%	104.2%
一般食品	28,696,187	26.1%	105.2%	104.1%
非食品	7,485,664	6.8%	103.1%	102.6%
その他	2,752,743	2.5%	98.4%	98.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	16,033,684	43	103.9%	103.2%
関東地方	40,967,359	73	104.8%	104.2%
中部地方	13,760,951	53	105.3%	102.2%
近畿地方	22,128,787	44	105.1%	104.2%
中国・四国地方	10,997,797	34	105.6%	103.8%
九州・沖縄地方	5,956,422	23	100.9%	100.6%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	826,338	47	100.1%	100.5%
4~10店舗	5,230,618	80	100.7%	101.3%
11~25店舗	11,683,587	54	104.0%	102.5%
26~50店舗	19,835,499	44	104.1%	103.3%
51店舗以上	72,268,957	45	105.2%	104.0%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	107,721,689	
総店舗数 (店舗)	8,040	店舗平均月商 (万円)	13,662	
総売場面積 (㎡)	13,421,079	売場1㎡あたり売上高 (万円)	8.2	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2021年2月24日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2020年 年間実績（パネル270） 確報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年比 （全店）	前年比 （既存店）
総売上高	1,145,340,762	100.0%	106.3%	105.0%
食品合計	1,032,786,176	90.2%	106.9%	105.6%
生鮮3部門合計	398,945,929	34.8%	108.8%	107.4%
青果	160,923,784	14.1%	109.0%	107.7%
水産	101,173,142	8.8%	107.0%	105.5%
畜産	136,849,003	11.9%	110.0%	108.5%
惣菜	113,265,174	9.9%	101.3%	100.0%
日配	225,467,669	19.7%	107.3%	105.8%
一般食品	295,107,405	25.8%	106.5%	105.2%
非食品	79,546,765	6.9%	102.7%	101.2%
その他	33,007,821	2.9%	96.0%	96.4%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年比 （全店）	前年比 （既存店）
北海道・東北地方	158,470,076	43	106.1%	104.9%
関東地方	428,617,535	73	107.6%	106.5%
中部地方	142,022,096	53	107.1%	104.8%
近畿地方	241,441,576	44	104.6%	103.7%
中国・四国地方	114,675,742	34	106.8%	105.3%
九州・沖縄地方	60,113,738	23	102.0%	100.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年比 （全店）	前年比 （既存店）
1～3店舗	7,786,705	45	102.2%	103.1%
4～10店舗	53,866,722	79	103.2%	103.9%
11～25店舗	127,961,809	59	106.3%	104.7%
26～50店舗	198,367,296	43	105.9%	105.1%
51店舗以上	757,358,230	44	106.6%	105.1%

※保有店舗数カテゴリーは2020年1月時点での保有店舗数による分類

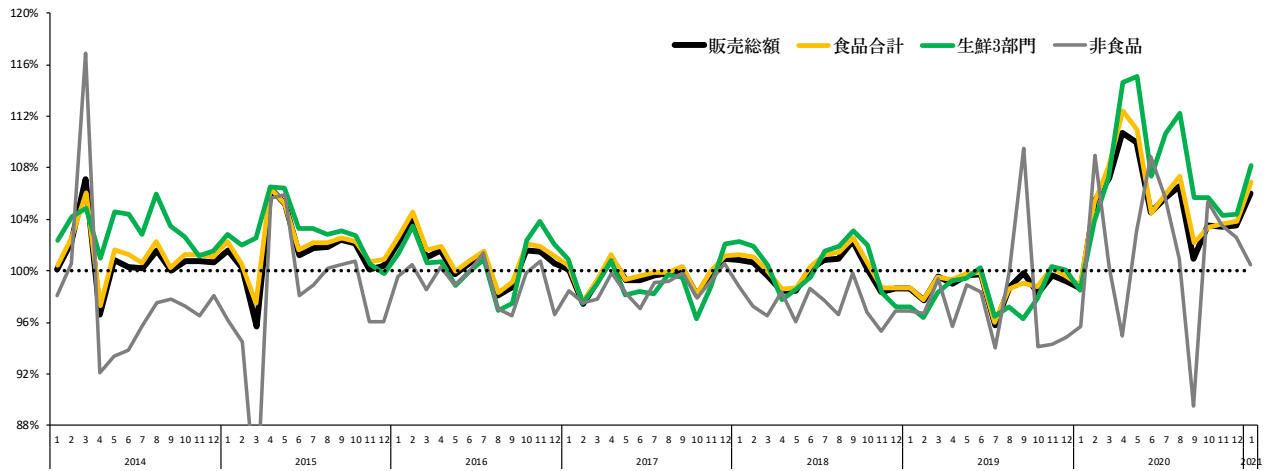
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	1,119,521,050
----------	-----	-------------	---------------

※売上高は税抜金額

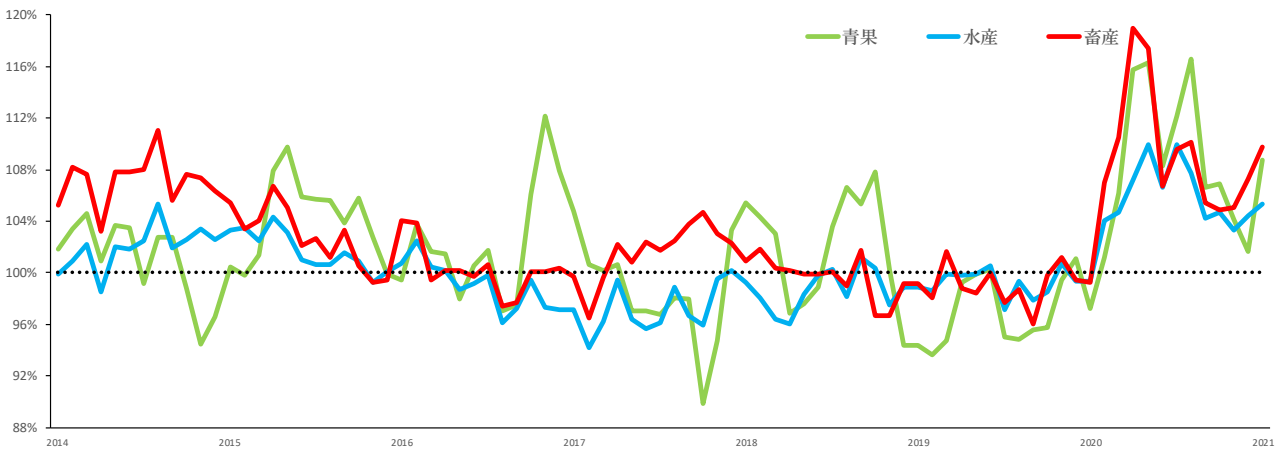
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2014年1月～

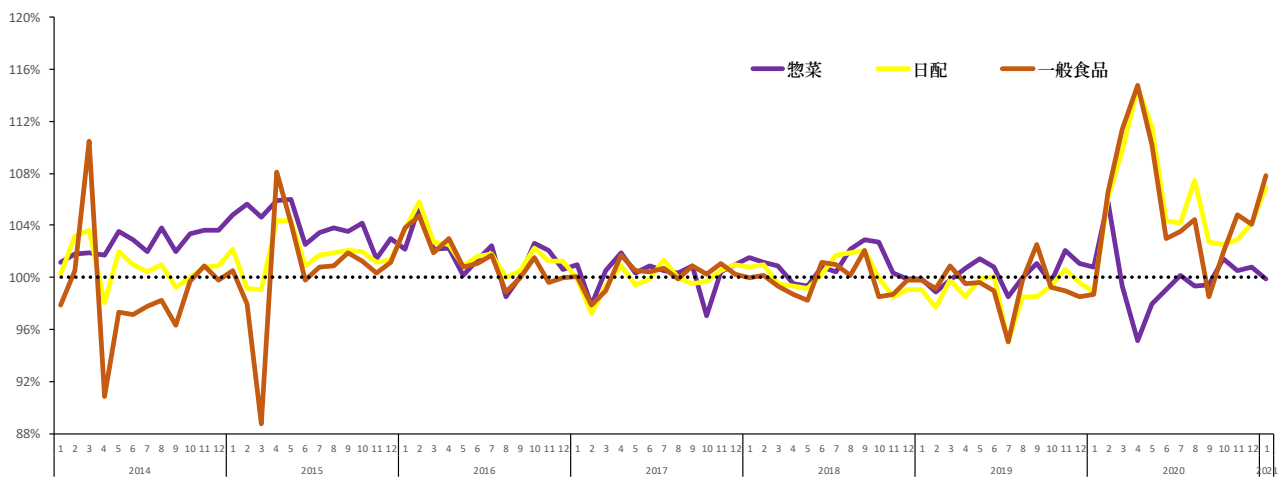
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2021年1月実績は速報版

c

2021年1月エリア別気候状況

気温の特徴：全国的に気温は上旬は低く、下旬は高く、気温の変化が大きかった

上旬：北・西日本と沖縄・奄美でかなり低く、東日本では低かった。

中旬：沖縄・奄美で低かった。北・東・西日本では平年並だった。

下旬：東・西日本でかなり高く、北日本と沖縄・奄美が高かった。

2020年1月との比較：上旬は全国的にかなり低く、中旬以降も前年より低い気温となった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2021年1月			2020年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	-3.8	-0.2	1.5	0.5	1.6	2.8	-4.3	-1.8	-1.3
太平洋側	-3.8	-0.2	1.6	0.7	1.4	2.8	-4.5	-1.6	-1.2
東日本 日本海側	-2.5	-0.4	1.8	2.2	2.5	4.0	-4.7	-2.9	-2.2
太平洋側	-1.4	0.3	2.5	2.1	2.1	3.7	-3.5	-1.8	-1.2
西日本 日本海側	-3.2	0.3	3.5	2.9	1.6	4.4	-6.1	-1.3	-0.9
太平洋側	-2.9	0.0	3.3	2.3	1.3	4.2	-5.2	-1.3	-0.9
沖縄・奄美	-2.3	-1.1	1.7	1.4	0.9	2.2	-3.7	-2.0	-0.5



日照時間の特徴：西日本日本海側では日照時間はかなり多かった

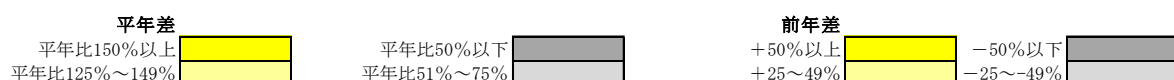
上旬：東日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なかった一方、北日本太平洋側では多かった。

中旬：西日本でかなり多く、沖縄・奄美で多かった。一方、北日本太平洋側で少なかった。

下旬：北・東・西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。一方、東日本太平洋側でかなり少なく、北日本太平洋側で少なかった。

2020年1月との比較：上旬は全国的にやや少なく、中旬以降は西日本を中心に多い日照時間となった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2021年1月			2020年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	87	104	131	113	133	117	-26	-29	14
太平洋側	111	91	89	112	91	93	-1	0	-4
東日本 日本海側	54	108	137	107	94	104	-53	14	33
太平洋側	108	102	82	103	89	64	5	13	18
西日本 日本海側	93	155	119	122	83	61	-29	72	58
太平洋側	107	135	105	132	84	64	-25	51	41
沖縄・奄美	51	117	151	195	85	157	-144	32	-6



降水量の特徴：東日本日本海側では降水量はかなり多く、記録的な大雪となった所もあった

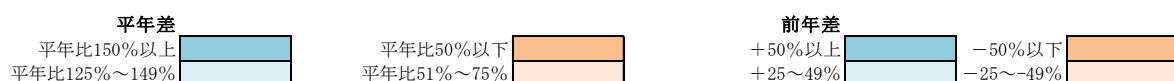
上旬：東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側では多かった。一方、東日本太平洋側でかなり少なく、西日本では少なかった。

中旬：西日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、東・西日本太平洋側で少なかった。一方、北・東日本日本海側で多かった。

下旬：西日本太平洋側でかなり多く、北・東日本太平洋側と西日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。一方、北・東日本日本海側で少なかった。

2020年1月との比較：北・東日本日本海側ではかなり多く、東日本太平洋側や西日本ではかなり少なくなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2021年1月			2020年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	116	115	70	51	55	86	65	60	-16
太平洋側	75	96	120	94	44	258	-19	52	-138
東日本 日本海側	214	122	71	106	86	86	108	36	-15
太平洋側	5	21	225	113	66	285	-108	-45	-60
西日本 日本海側	52	40	119	109	34	325	-57	6	-206
太平洋側	14	29	267	102	40	352	-88	-11	-85
沖縄・奄美	108	21	145	6	54	67	102	-33	78



気象庁報道資料「1月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年 (1981年~2010年) の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2021年2月調査結果（1月実績） （2021年2月24日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

2月調査（1月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに前月水準で推移

1月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から+2.6の47.7、見通し判断は前月から+1.5の39.6となり、共に前月から小幅な改善となった。

経営動向調査は、売上高DI、収益DI共に前年に比べプラス幅を拡大し、二桁のプラスまで上昇した。緊急事態宣言の発令による巣ごもり需要の増大より、買上点数の増加による客単価DIの大幅なプラスが継続した。来店頻度の減少による来客数DI低下はみられるが、青果相場に上昇傾向がみられるなど、生鮮品仕入れ原価DIがプラスとなったことも追い風になった。

カテゴリ動向調査では、外出自粛や飲食店の時短営業による内食傾向の高まりを受け、惣菜DIと非食品を除くDIは軒並み上昇した。なかでも相場上昇と鍋関連が好調となった青果DIは14.0と前月から+21.1となった。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断のいずれのDIも小幅に改善傾向が続いており、なかでも消費者購買意欲DIは、好不調判断の分かれ目となる50を上回った。（長期傾向についてはp11参照）

今月は緊急事態宣言により再び巣ごもり需要の拡大がみられた。感染拡大から1年が経過し、カテゴリ単位の前年比較だけでは、消費者動向の把握が難しくなることが予想される。自粛生活の長期化により内食志向にも変化がみられる可能性があるなかで、より詳細な商品特徴に着目した販売動向の把握と変化する消費者ニーズへの迅速な対応が求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：47.7 (+2.6) 前月：45.1	消費者購買意欲DI 当月：50.2 (+1.3) 前月：48.9	周辺地域 競合状況DI 当月：45.2 (+1.1) 前月：44.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：43.8 (+0.9) 前月：42.9
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：39.6 (+1.5) 前月：38.1	消費者購買意欲DI 当月：44.5 (+2.2) 前月：42.3	周辺地域 競合状況DI 当月：42.7 (+1.5) 前月：41.2	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：39.6 (+1.0) 前月：38.6
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：14.0 (+8.4) 前月：5.6	客単価DI 当月：25.6 (+4.2) 前月：21.4	来客数DI 当月：-20.3 (-2.4) 前月：-17.9	
収益DI 当月：12.8 (+3.7) 前月：9.1	販売価格DI 当月：2.6 (+1.6) 前月：1.0	生鮮品仕入原価DI 当月：5.8 (+4.5) 前月：1.3	食品仕入原価DI 当月：4.4 (+1.4) 前月：3.0

カテゴリ動向

青果DI 当月：19.6 (+21.1) 前月：-1.5	水産DI 当月：10.6 (+3.3) 前月：7.3	畜産DI 当月：22.3 (+4.9) 前月：17.4	
惣菜DI 当月：-5.6 (-3.6) 前月：-2.0	日配DI 当月：18.6 (+9.0) 前月：9.6	一般食品DI 当月：16.3 (+7.7) 前月：8.6	非食品DI 当月：9.1 (-1.6) 前月：10.7

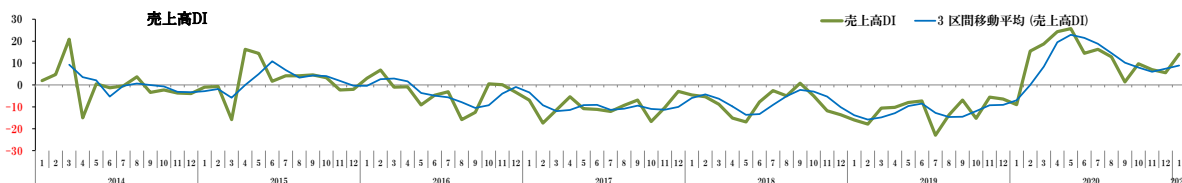
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月から大きく上昇し、プラス幅を二桁に拡大

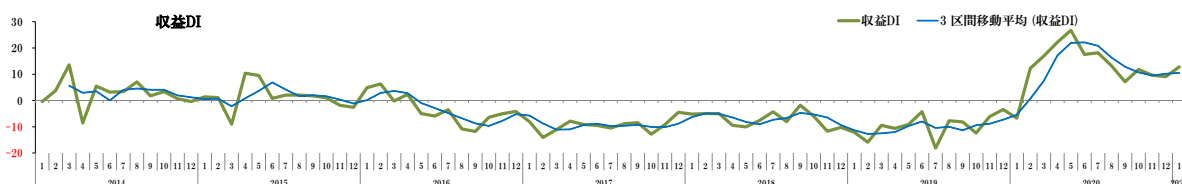
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	7.3	20.1	24.6	39.1	8.9	5.6
売上高 (当月)	6.8	10.5	19.1	46.9	16.7	14.0



2. 収益DI

前月から大きく上昇し、プラス幅を二桁に拡大

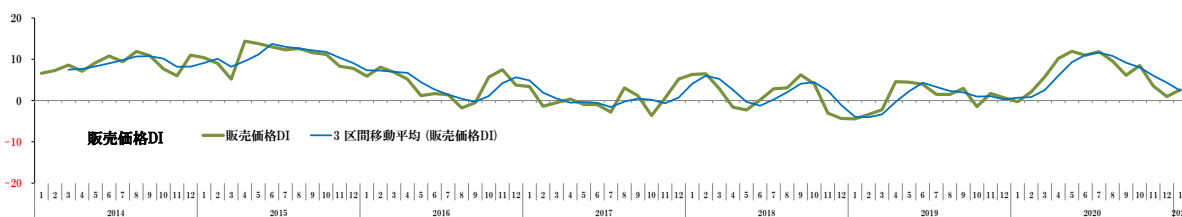
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	6.8	15.3	25.6	39.2	13.1	9.1
収益 (当月)	6.3	11.9	21.9	44.4	15.6	12.8



3. 販売価格DI

横ばいで推移し、プラス圏を維持

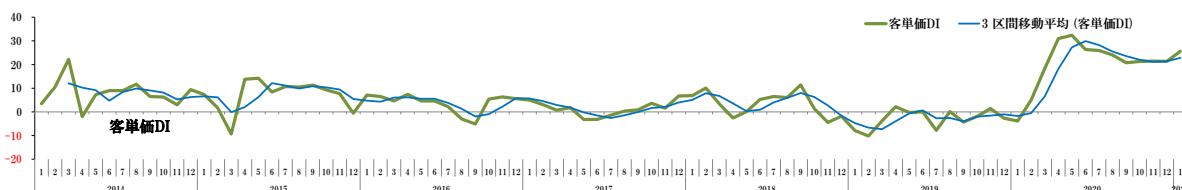
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	1.7	13.6	66.7	15.3	2.8	1.0
販売価格 (当月)	0.6	10.5	68.5	18.5	1.9	2.6



4. 客単価DI

前月から上昇し、大幅なプラス圏を維持

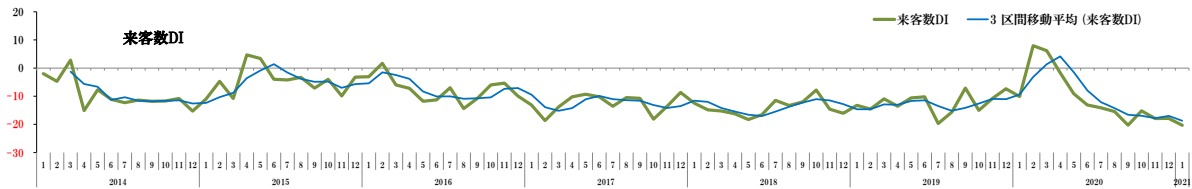
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.1	7.8	12.8	60.9	17.3	21.4
客単価 (当月)	0.6	5.0	16.8	46.6	31.1	25.6



5. 来客数 DI

二桁マイナス水準での推移が続く

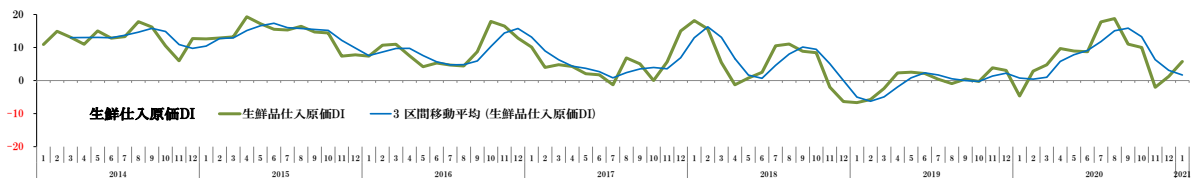
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	20.1	46.9	20.1	10.1	2.8	-17.9
来客数 (当月)	23.6	47.2	18.0	9.3	1.9	-20.3



6. 生鮮仕入原価 DI

小幅に上昇しプラス圏維持

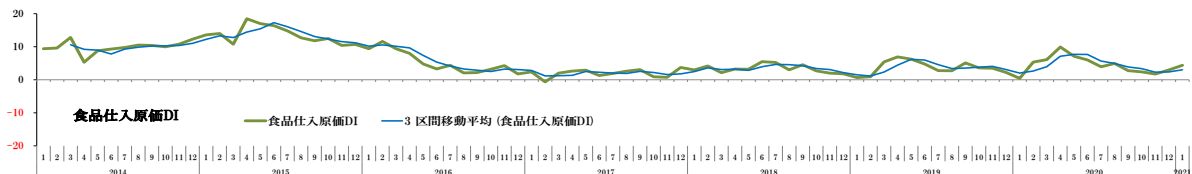
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	17.0	61.9	15.3	4.5	1.3
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	7.7	67.3	19.2	5.8	5.8



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.1	5.1	78.4	11.4	4.0	3.0
食品仕入原価 (当月)	0.6	3.1	78.1	14.4	3.8	4.4

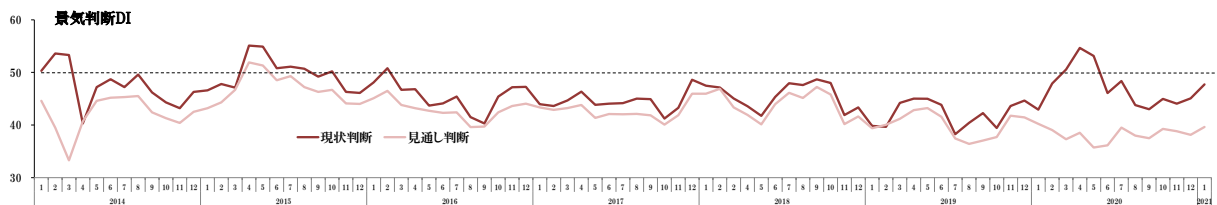


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通しともに改善

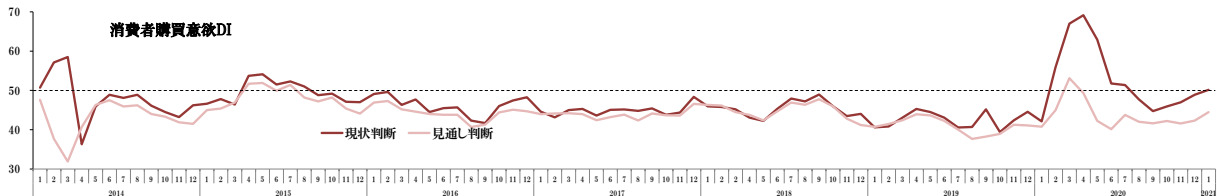
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	2.2	28.0	57.7	11.5	0.5	45.1
【現状】景気判断 (当月)	4.8	20.0	55.2	19.4	0.6	47.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	6.6	39.8	48.1	5.5	0.0	38.1
【見通し】景気判断 (当月)	6.1	35.4	52.4	6.1	0.0	39.6



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は50台まで改善、見通し判断も小幅に改善

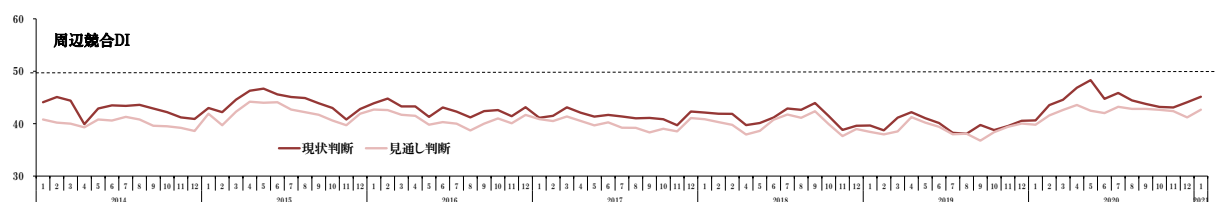
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.0	26.4	52.2	20.9	0.5	48.9
【現状】購買意欲 (当月)	0.0	18.2	63.6	17.6	0.6	50.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	3.3	33.5	53.8	9.3	0.0	42.3
【見通し】購買意欲 (当月)	1.8	26.4	63.8	8.0	0.0	44.5



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しとも小幅に改善

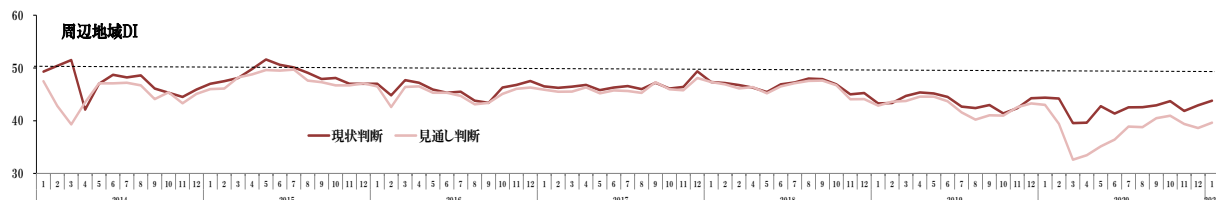
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.7	20.9	73.6	2.7	0.0	44.1
【現状】競合状況 (当月)	3.0	14.5	81.2	1.2	0.0	45.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.4	26.9	68.1	0.5	0.0	41.2
【見通し】競合状況 (当月)	4.9	20.7	73.2	1.2	0.0	42.7



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しとも小幅に改善

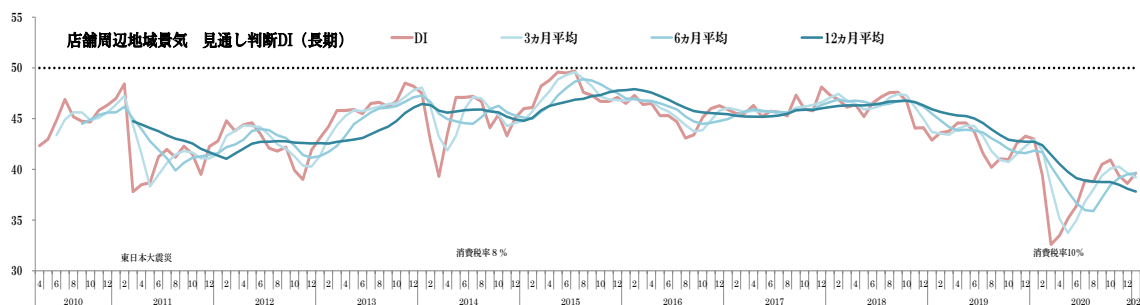
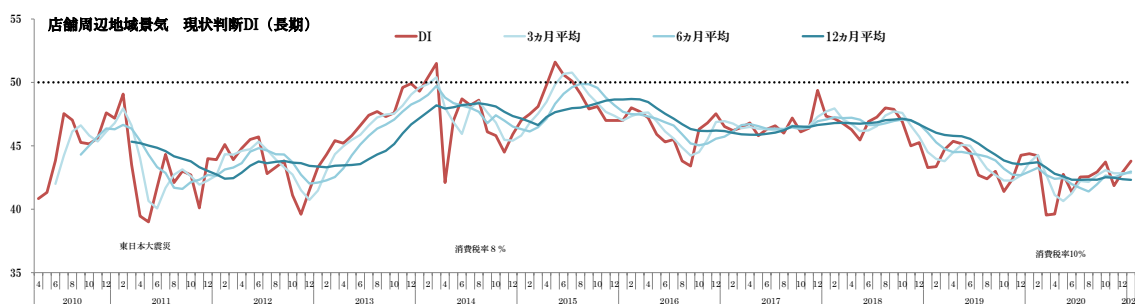
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.6	30.0	67.2	1.7	0.6	42.9
【現状】地域景気 (当月)	1.8	22.4	74.5	1.2	0.0	43.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	3.3	40.0	55.6	1.1	0.0	38.6
【見通し】地域景気 (当月)	3.7	35.4	59.8	1.2	0.0	39.6



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

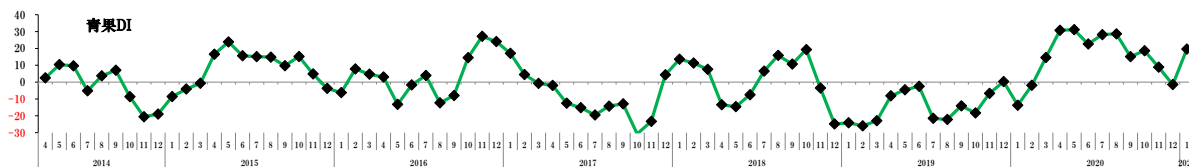
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月に大幅に悪化したものの、5月から10月まで持ち直しの動きが続いた。以降は一進一退の推移となっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：19.6（好調）

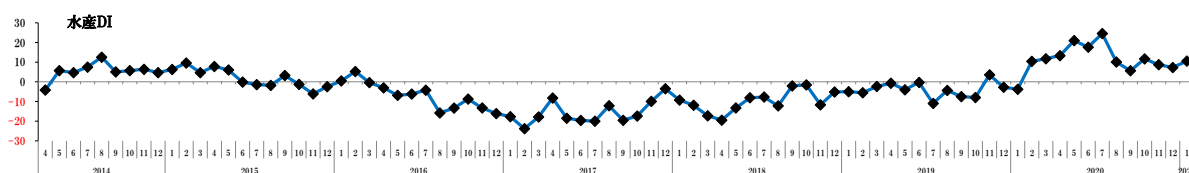
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	11.0	28.5	23.3	29.7	7.6	-1.5
青果（当月）	3.2	8.2	20.3	43.7	24.7	19.6



緊急事態宣言発令に伴い家庭内消費需要が再拡大したこと、相場安が落ち着き平年並みに回復し、前年相場安から比較で一品単価が上昇したことで好調に推移した。前年は気温が高く鍋物商材が不振となったが、今年は一転して気温が低く推移し、ネギや白菜、キノコ類などの動きがよかった。調理用として、じゃがいもやねぎ類など土物類も好調が続いているほか、トマトや洋菜などのサラダ商材も好調となった。果物では、イチゴやみかんなどの柑橘類が好調となった。

2. 水産DI：10.6（好調）

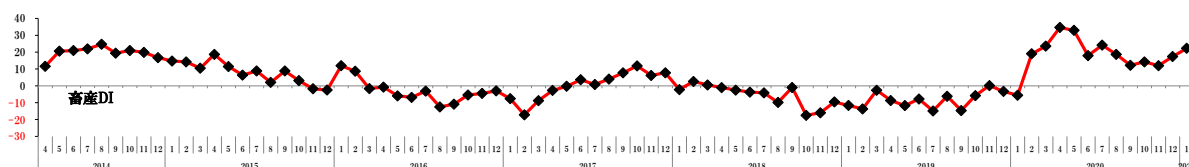
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	6.3	19.5	24.7	37.4	12.1	7.3
水産（当月）	7.1	16.7	23.7	32.1	20.5	10.6



緊急事態宣言発令に伴う内食向け需要の増加により、刺身類や簡便調理商品、保存が利く冷凍加工品が好調となった。一方で、帰省客の減少により、年始の刺身盛り合わせなどに大きな影響を受けた店舗もみられた。前年に比べ気温がかなり低く推移したことで、牡蠣や、カニ、エビ、練り物など鍋関連商材の動きがよかった。農林水産省の緊急対策事業による販売支援も追い風にウナギやサーモンが好調とのコメントがみられた。生魚は入荷が不安定で不調となった店舗が多かった。

3. 畜産DI：22.3（かなり好調）

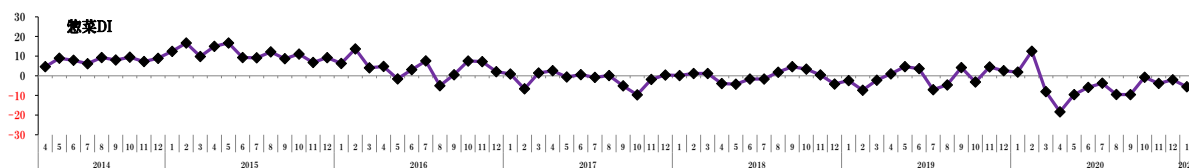
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	1.7	12.1	20.7	46.0	19.5	17.4
畜産（当月）	3.2	6.4	19.1	40.8	30.6	22.3



緊急事態宣言発令に伴う調理需要の増加により、大型パックを中心に月を通じかなり好調に推移した。前年暖冬からの反動により、鍋用食材の引き合いが強く、相場の上昇も追い風に豚肉や鶏肉が好調となった。牛肉にも国産、輸入問わず需要が集まっているが、和牛価格に上昇傾向がみられており、伸び悩んだ店舗もみられた。ハムなど加工肉も引き続き堅調に推移した。

4. 惣菜DI：-5.6（やや不調）

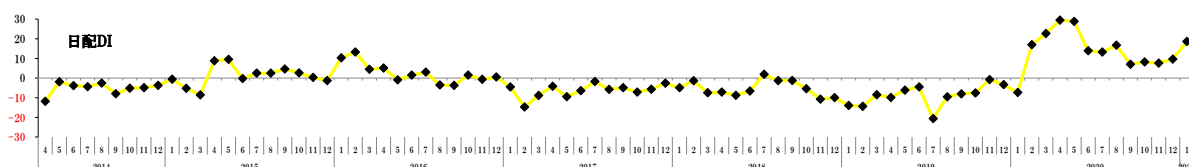
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	6.9	31.8	28.3	28.3	4.6	-2.0
惣菜（当月）	8.3	37.8	25.0	25.6	3.2	-5.6



年始に帰省客減少による影響を受けたほか、成人式をはじめとするイベント中止で予約販売が不振となった。引き続きバラ売りや試食販売自粛の影響、通勤客減少の影響を受けた夕方以降の来店客数減少を受けている店舗が多い。中食ニーズにより米飯類に回復傾向がみられたほか、気温低下により麺類などホット惣菜、「家飲み」向けおつまみ惣菜は引き続き堅調に推移した。

5. 日配DI：18.6（好調）

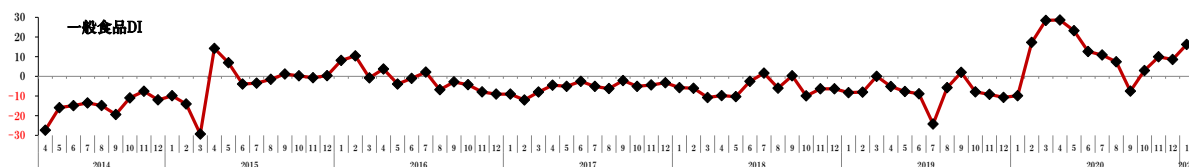
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	4.0	15.5	28.7	41.4	10.3	9.6
日配（当月）	2.5	7.6	22.9	46.5	20.4	18.6



堅調な家庭内需要と保存性を背景に冷凍食品が好調に推移したほか、簡便志向によりピザなどチルド食品の動きがよかった。気温が低下したことでホット商材やおでん・鍋商材の動きがよかった。供給が回復したバター、そしてチーズなどの乳製品の好調も継続している。巣ごもり生活の長期化を意識した高単価の食品やデザートへの動きがよい。TV 報道により納豆に特需が発生した店舗もみられた。機能性ヨーグルトは好不調がわかれている。

6. 一般食品：16.3（好調）

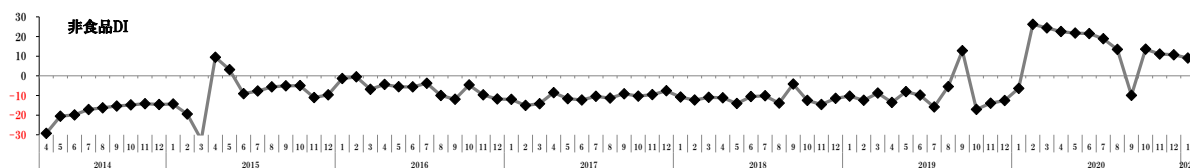
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	2.9	17.7	33.7	33.7	12.0	8.6
一般食品（当月）	2.5	11.9	25.6	38.1	21.9	16.3



緊急事態宣言発令に伴う巣ごもり需要の高まりを受け、米や調味料、粉物や手作り用食材、レトルト、インスタントなどがいずれも好調となった。前年より低い気温でスープ類、鍋つゆ、コーヒーなどホット商材が好調となった一方で、飲料や菓子類は前年並みとなった店舗が多かった。家飲み傾向が一層強まり、酒類や珍味などのつまみ類が好調となった。大雪により保存可能な商品に買いだめが発生した地域もみられた。

7. 非食品DI：9.1（やや好調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	4.1	18.8	25.3	33.5	18.2	10.7
非食品（当月）	8.4	13.6	29.9	29.2	18.8	9.1



マスクやハンドソープ、除菌用アルコールなど衛生用品の需要は引き続き堅調も、一部には前年からの反動を受け前年実績を下回る店舗もみられた。気温の低下によりカイロなどの季節商品が好調となった。ラップなどの台所用品、洗剤をはじめとする家庭用品などがいずれも好調を維持した。大雪に見まわれた地域では、電池やコンロなどに特需もみられた。

カテゴリ別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2021年2月調査（1月実績）キーワードTOP3

1. 緊急事態宣言発令（飲食店時短営業）による内食需要拡大
2. 青果相場の落ち着き
3. 寒波（気温の低下、大雪）

（参考）2020年2月調査（1月実績）キーワードTOP3

1. 冬物商材不振（前年より高い気温）
2. 青果相場安
3. 節約志向

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

1月実績速報版 161社
 12月実績確報版 181社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp